

ヴァイオリニスト

戸上眞里氏



プロフィール

函南町在住。東京藝術大学付属音楽高等学校を経て、同大学を卒業。新日本フィルハーモニー交響楽団ファーストヴァイオリン奏者を経て、現在東京フィルハーモニー交響楽団セカンドヴァイオリン首席奏者。文化庁派遣講師として全国の小学校などで、「音楽のちから」コンサート企画展開中。トリトン晴れた海のオーケストラ、チェンバーソリストツ佐世保メンバー。

心と心を通わせる 街とつながる音楽祭

2022年1月16日に初めて開催される「三島せせらぎ音楽祭」。日本のクラシック界を代表するトッププレイヤーが三島に集結する。演奏家の一人で、実行委員でもある戸上眞里さんにお話を伺った。

14人のうち、半分が前回集まったメンバーで、もう半分は私よりもぐんと若い世代の音楽家が集まります。とても優秀で、人間的にも素晴らしい方々ばかりです。せせらぎ音楽祭がこの先ずっと続けられるように、世代交代しても想いを継承していきたいと考えています。

「三島せせらぎ音楽祭」開催の経緯について教えてください。

2020年8月、ヴァイオリン奏者の矢部達哉さんの呼びかけで9人の音楽家が三島に集まり「こころの音楽会」を開催しました。

コロナ禍により音楽家も全く仕事がなく、練習の目的を見失い、先行きへの不安と迷いで自信もなくなっていました。

たときに、子どもたちが、わーっと目を輝かせて聴いてくれたのです。三島スカイウォークの屋外ステージで演奏した時は、お客さんがものすごい笑顔で大きな拍手をしてくれました。ああ、音楽ってまた必要とされているんだと感じ、演奏家メンバー皆が三島に特別な想いを持つようになりました。

音楽の持つ力、自分たちの存在意義を再認識した三島に、あのメンバーでまた集まりたい、皆さんのために音楽を届けたい、と今回企画したのが「三島せせらぎ音楽祭」です。

しにいった男の子がいたんです。その子は脳が麻痺して植物状態で、目も自分では閉じられず、テープで閉じられていたのですが、赤とんぼを弾いたら、その目から一筋の涙が流れたのです。身体に繋がれた機械からもビービー音がして……。それを見たときに、彼にとっても音楽が沁みこんだと思うけれど、私たちがそれを見てすぐ沁みこんだ、どっちも心を通わせられたと思ったことがあります。こういう瞬間が、私にとつて音楽を演奏する喜びです。

このような、音楽で心と心が通じ合う喜びを、前回の「こころの音楽会」の時に感じました。今回もホールでのコンサートだけでなく、商業施設や小学校での演奏会、中学生への演奏指導、吹奏楽クリニックなど、三島の皆さんと出会い、交流する機会をたくさんつくりたいです。

12月に開催した「吹奏楽クリニック」では、指導を受けて中学生たちの表情と演奏がキラキラ輝き、みるみる変化していく様が感動的でした。

三島は歩いていけると、いつも小川が見えて大好きです。どこでも富士山が見えるのも最高ですね。そして、温かい人が多い気がします。食べ物も量が多くて美味しいです！

私は京都で育ち、東京から函南に移住したのですが、今やここが本当のホームになりました。東京に通勤するのも便利なので、移住先として周りにも勧められています。

要望があるとすれば、三島市民文化会館のチケットが、誰でもオンラインで席まで申し込めるようになってほしいですね。

今後「三島せせらぎ音楽祭」が続いていけば、遠方の方が音楽祭のために三島を訪れ、観光も楽しんでくれると思います。それだけの魅力がある音楽祭として続けたいと考えています。



三島せせらぎ音楽祭「吹奏楽クリニック」(2021年12月開催) 指揮者・下野竜也さんとトランペット奏者・高橋敦さんによる指導の様子

三島市制80周年・文化会館開館30周年記念

三島せせらぎ音楽祭

音楽でつながる、未来へつなげる。

三島せせらぎ音楽祭

日本のクラシック界を代表するトッププレイヤーの集結、感動を届ける「せせらぎ」のように三島に音楽を届けたい。

YouYou せせらぎコンサート

2022年1月16日(日)

三島市民文化会館 大ホール

——ヴァイオリニストという職業、その道のりについて教えてください。

私は京都の生まれですが、母がヴァイオリニスト、父はトロンボーン、京都府交響楽団に所属する音楽家で、3歳からヴァイオリンを習い始めました。中学生の頃にプロの音楽家になると決めて、音楽高校、大学に進み、卒業してすぐ新日本フィルハーモニー交響楽団に入りました。当時、ヴァイオリニストはソリストを目指すのが当たり前という風潮がありましたが、私はオーケストラで演奏することに音楽家としての喜びを感じていました。その8年後、憧れの指揮者の下で演奏したくて、東京フィルハーモニー交響楽団に移り、今に至ります。

多彩な才能と出会える オーケストラの活動

一人で演奏活動をするだけではなかなか出会えないような素晴らしい指揮者やソリストと一緒に演奏できるのは、オーケストラで活動する喜びですね。同時に、演奏には常に曲の解釈や時代背景などについての勉強が必要で、何度演奏した曲でも毎回勉強し直さないといけないので、いつも挑戦です。

オーケストラの団員としての演奏活動以外にも、室内楽やボランティアで音楽を届ける活動などもたくさん行っています。

——どんな活動でしょうか？
15年ほど前に「音楽のちから」という

団体を東京フィルのメンバーを中心に5、6名でつくりました。コンサートホールに簡単に聴きに行くことができない田舎の小学校や、児童養護施設、重症心身障害児(者)、病棟などに出向いて演奏するボランティア活動をしています。函南に移住して、息子が通っていた丹那小学校から活動が広がっていききました。

人と人とのつながりが 原動力

三島では静岡恵明学園さんに、近隣では丹那小学校や天城小学校など小規模の学校へ。文化庁の助成金を活用して、北は北海道の函舞から南は鹿児島県の与論島まで、全国にご縁をいただき伺っています。

会場では毎回テーマを決めて、子ども向けのポピュラーソングではなく、しっかり本気のクラシックを演奏します。「音楽のちから」の活動は、私たちがみんなに会いたい、力をもらいたいという気持ちで続けています。同じ子どもたち、先生に会いに行き続けることが大切で、人と人とのつながりが活動の原動力になっています。

——演奏家として活動する中での醍醐味や喜びはどんなことでしょうか？

音楽によって
心を通わせられる喜び

以前こんなことがありました。重症心身障害児(者)病棟で、病室まで演奏を

三島カルチャーをつくる人びと」は、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所/生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。